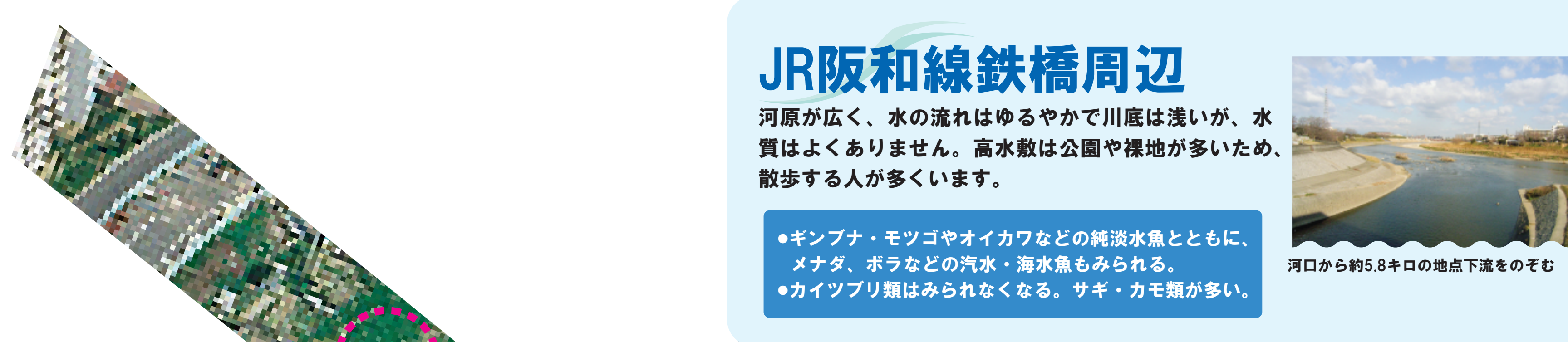


大和川の自然環境

～たくさんの生き物たちが住む大和川～

大和川には、中流から下流にかけて、魚52種、植物592種、鳥106種、ネズミ・ヘビ・カエル等の小動物25種、クモ・昆虫1,321種、底生動物254種の合計2,350種のさまざまな生き物がすんでいます。



JR阪和線鉄橋周辺

河原が広く、水の流れはゆるやかで川底は浅いが、水質はよくありません。高水敷は公園や裸地が多いため、散歩する人が多くいます。

- ギンブナ・モツゴやオイカワなどの純淡水魚とともに、メナダ、ボウなどの汽水・海水魚もみられる。
- カイツブリ類はみられなくなる。サキ・カモ類が多い。



河口から約5.8キロの地点下流をのぞむ

阪堺大橋周辺

淡水と海水が混ざる汽水域。川幅は広いが、ほとんどがコンクリートで固めた人工護岸のため、河原はありません。周辺は工場や住宅地で、堤防を大きくして阪神高速道路を通す計画が進められています。散歩をする人が多くいます。



河口から約2.5キロの地点下流をのぞむ

- カイツブリ、カワウ、ウミネコなど水鳥が多い。
- 汽水・海水魚であるメナダ、ボウなどが多く生息。



柏原市民文化会館 リビエールホール

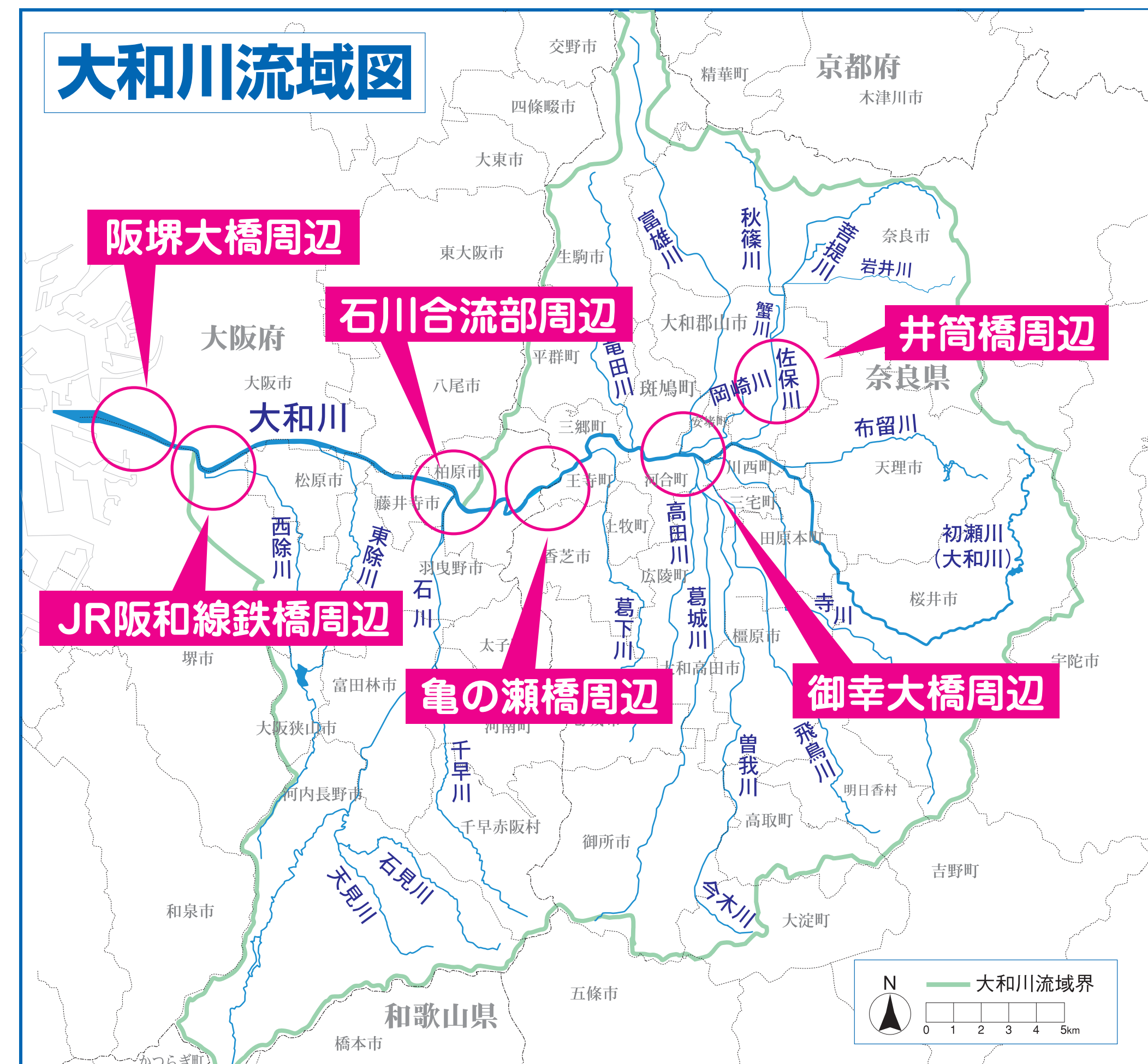
御幸大橋周辺

中流域の河川の形をしているところで、堤内には水田や池などがあり草地在広がっているため、大和川でもっとも多く種類の鳥類がいます。周辺は住宅地や田畑が多く、富雄川や曾我川が流れこんでいます。



河口から約33.0キロの地点下流をのぞむ

- 鳥類の種類がもっとも多く、多様である。
- 草地性の種や水田・池沼でみられる昆虫が多い。



大和川流域図

阪堺大橋周辺

石川合流部周辺

井筒橋周辺

JR阪和線鉄橋周辺

亀の瀬橋周辺

御幸大橋周辺

井筒橋周辺

川幅が狭く比較的生物の種類が少ないが、つりをする人がみられます。



井筒橋から上流をのぞむ

- 生物の種類が少ない。
- 水域性の鳥類や種類も数も少ない。

石川合流部周辺



河口から約18.2キロの地点下流をのぞむ

柏原堰堤から大和川の上流になります。特徴は、植物の種類が多く、高茎草本群落や砂礫地や広々とした河原があり、河床は細かい砂泥で流れはゆるやかです。

- ギンブナ・モツゴ・オイカワなど純淡水魚が多く、汽水・海水魚はみられない。カワムツなど中流～上流を好む種も多く、柏原堰堤を遡上しようとするアユもみられる。
- イカルテドリやオオヨシキリが多い。
- 草地にすむ昆虫類が多い。
- トンボの種類が多い。

魚

堰の上流でもあるためここから上流は汽水の影響がなくなり、汽水・海水魚がみられなくなります。この区間ではアユ、カワムツなど中上流を好む種もいます。オオクチバス、ブルーギルなどの特定外来種のほか、汚い水に強いコイなどもいます。



北米原産の外来魚で止水域の水草周辺を好む



中流域にすみ、なわばりを作って日中に活動する

クモ・昆虫

水際にならかな地形があるため、ハマベハサミムシやヨツモンミスギワコメツキがみられ、そのような湿地にイネ科植物の群落が成立した場合にみられるババヒメデントウがいます。また、草地が広く分布しているため、草間にアシナガクモ科のクモ類が巣を張っているほか、カモガヤなどに寄生するフタスジメクラガメや、イネ科植物に寄生するヒゲナガカメムシなどのカメムシ類やバッタ類も多くみられます。

亀の瀬橋周辺



河口から約24.0キロの地点上流をのぞむ

山が近く川幅が狭い溪谷で、瀬と淵が連続しているため平坦な陸地はありません。亀の瀬と呼ばれる溪谷地区では、大規模な地すべりの対策が地中深いところで行なわれています。

- 流速が速く礫質の場所に生息するカワニナやサワガニなどの底生動物がいる。
- 樹林性の鳥類や昆虫類が多い。
- 河畔林を特徴づける種、森林を特徴づける種が多い。

魚

勾配がややきつく流れが速くなっているため、オイカワ、カマツカなどの流水域を好む純淡水魚やカワヨシノボリ、カワムツなど中上流域を好む純淡水魚や、コイ、モツゴなど止水からゆるやかな流れを好む純淡水魚も多くみられます。外来魚は他の区間に比べて少ないです。



瀬の流れのゆるやかなところでみられる



中・下流の淵にすみ底生動物などを食べる

クモ・昆虫

河川と山が接しているため、クモ類では樹上に巣を張るゴミグモやヤマトゴミグモ、ジョロウグモなどがみられます。また、カトリヤンマのような樹林性のトンボや樹林に生息するモリチャバネゴキブリ、エダナナフシ、ヒラタクワガタなど、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、クロアゲハ、ルリタテハなどもいます。

鳥

水鳥のゴイサギ、オナガガモ、コアシサシ、広い川原や農耕地などを生息範囲の一部とするハヤブサも確認されています。開けた草地などで昆虫をとらえて食べるコシアカツバメ、タビバリ、ノビタキ、ヨシなどの背の高い植物群落を広い範囲で必要とするオオヨシキリもみられます。



湿地の草むらにすみ、6月産卵にさえる



夕方から川や池で魚をとる夜行性のサギの仲間



全国に分布し、湖沼・大きな河川でみられる



草原などで雪が増えると川べりによく現れる

鳥

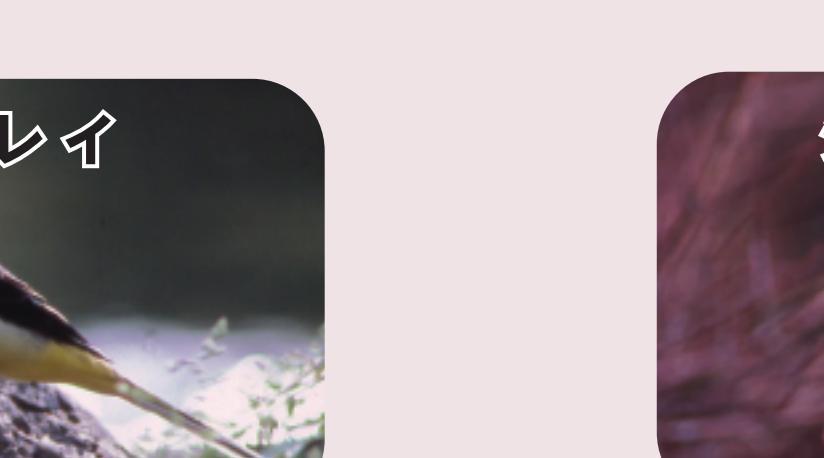
キセキレイ、ハクセキレイなど浅い水辺に飛ぶ小さな虫を食べる種、モズ、シジュウカラ、アオジなど樹林性の鳥類も多くいます。



落葉広葉樹林の鳥で秋に雨へ渡る



清流のゆたかな川べりにすみ



森だけでなく、林や市街地でもみられる

植物

オオカナダモ、イトモという水中で生育する種、ミソコウジュ、タニソバ、ヒメガマなどの定期的な水につかる水際に生育する種、セキショウといった水路の岩場などに生育する種、ミヤコグサ、ツルボ、クサボケなどの定期的に草刈りがされる明るい草地でみられる種などが確認されています。

小動物

(両生類、は虫類、ほ乳類)

河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、水深がある止水域を好むウシガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシippieアカミミガメがみられます。堤・草原・やぶなどにすむカナヘビ、人家の近い水辺に多くみられるアブラコウモリ、草地にすむコウベモグラ・アカネズミ、高茎の草地にすむカヤネズミ、水辺を好むイタチなどがいます。

底生動物

川底が比較的細かい砂泥～泥で、流れのゆるい場所にみられるユスリカ科やコカゲロウ属などの昆虫類、ミズミズシ科、イトミミズ科などのミズミズ類が多くいます。また、水中に植物のある流れのゆるい環境にみられるクロイトトンボ、キンヤンマ、植物の多い浅い湿地や水田でみられるモートンイトトンボ、砂泥から砂礫質の流水環境でみられるコシボソヤンマ、浅いゆるい流れの環境でみられるシオカラトンボなど、ほかの区間と比較してトンボ類が多いのが特徴です。これは水草や砂礫底などさまざまな環境があるためです。



やぶや草むら、人家の庭でもみられるトカゲのなかま



繁殖期は5～8月で水田などの浅い止水域に産卵

植物

ヌルデ、ハゼ、ウツギ、ヨウシュヤマゴボウなどの崩壊地に特徴的な種がみられます。カワラハシノギ、ネコヤナギなどの河畔林を特徴づける種、コナラ、アカマツ、ノガリヤス、ノコンギクといった森林を特徴づける種などがみられます。

小動物

(両生類、は虫類、ほ乳類)

低い木や草の上で生活するアマガエル、河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシippieアカミミガメがいます。やぶなどにすむカナヘビ、水辺を好むイタチなどがいます。



山間部や自然の多い平野部の水辺や田畑にくらす



中・下流域にすみ5月～8月繁殖する